

令和 9 年度専門医制度案に関する調査結果 (概要)

対 象 : 府内各専門研修基幹施設 (プログラム責任者)

実施時期 : 令和 7 年 7 月 1 日 (水) ~ 7 月 10 日 (金)

対象プログラム数 : 245 病院

回答プログラム数 : 106 病院 (回答率 : 43.3%)

目 的 : 令和 9 年年度専門医制度案について、現場の意見等を把握するため。

1. 令和 9 年度シーリング案への意見について (自由記載)

○シーリング数について

- ・配分枠数より志願者数が上回っており、希望者全員が希望する府内のプログラムを受けることができる制度とすべき。
- ・シーリングにより、専攻医が希望する地域で希望する診療科に進むことができなくなっている。 など

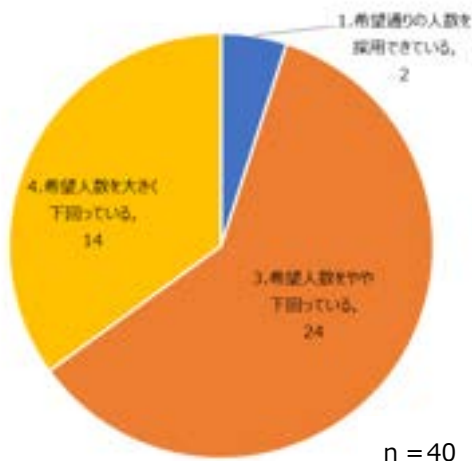
○シーリング設定方法について

- ・開業医を含めて医師の足元充足を判断するのは適切でない。勤務医数を重視してシーリングを設定すべき。国の計算では、大阪府のシーリング対象領域における医師の足元充足率は 1 を超えているが、現場では医師が不足していると感じている。
- ・シーリングを設定されている診療科においても、都道府県内において地域偏在があることから、各都道府県における偏在状況を考慮し、きめ細かやかにシーリングを設定するべき。

○医療提供体制維持への懸念

- ・医師が不足することで、十分な診療体制を確保することができず、医療の質の維持が困難になる恐れがある。
- ・シーリングにより美容外科 (直美) への人材流出の恐れがある。
- ・シーリングにより大学医局への入局者が減ることで、今後、地域への医師派遣を制限せざるを得なくなる恐れがある。

2. 直近 3 年間の採用状況 (シーリング対象領域)



○希望人数を採用できなかった主な理由

- ・シーリングにより定員数が抑制されており、希望通りの採用者を確保できなかったため。

○その他意見

- ・現場の診療体制を維持するためには継続的な専攻医の確保が不可欠であるが、定員数自体が抑制されているため、希望通りの採用につながっていない。
- ・シーリングにより、自身が希望する専門研修に進めない可能性があるため、不安に感じている研修が多く、実際に募集段階で辞退されるケースもある。

3. 今後もシーリングが続いた場合の影響について

- ・人材不足に陥り、府内の医療提供体制（特に救急）の維持が困難となる。
- ・若手医師数が減り、医師の高齢化が進むことで、医療の発展の妨げになると思われる。
- ・府外に出たくない医師が、シーリングの制限を受けない美容外科等に流出する可能性がある。
- ・現在若手医師の採用を抑制されることで、将来的に指導医が不足し、教育の質の低下が懸念される。

など